

プログラム紹介

B コース : キープ・フォレスターズスクール
場所 : 山梨県北杜市清里町
日時 : 2008 年 11 月 22 日 ~ 11 月 26 日

講座のねらい

自分なりの言葉で「環境教育」について話せるようになる
自分の中の「小さな一歩」を踏み出すきっかけをつかむ
全国の仲間とのネットワークを作る
自分自身のねらいを達成する

そのために大切にしたいこと

体験から学ぶこと
お互いから学ぶこと
楽しみながら学ぶこと

プログラム進行表

=====

第1日目 7月11日(土)

テーマ: *出会う*

=====

| | | |
|-------|-------------|---------------------|
| 12:00 | 17期生 | 受付開始 |
| 12:30 | 17期生 | 講座の準備:ふりかえりと目標の設定 |
| 13:00 | 17期生 | 実習:環境教育プログラム実施の準備 |
| 14:00 | 18期生 | 受付開始 |
| 14:30 | | 開講式 / オリエンテーション |
| 15:00 | | 簡単アイスブレイク |
| | 17期生 | 環境教育プログラムの実施 |
| | 18期生 | 環境教育プログラムの体験 |
| 16:45 | | 休憩 |
| 17:00 | 17期生 | プログラム実施のふりかえりとわかちあい |
| | 18期生 | 講義:環境教育概論 |
| 18:00 | | 夕食 |
| 19:15 | | 目的の共有化 & 自己紹介 |
| 20:00 | | 1日を整理する時間 |
| 20:15 | | 自由交流会 |

=====

第2日目 7月12日(日)

テーマ:つなぐ

=====

07:00 **18期生** 環境教育プログラムの体験 ガイドウォーク

08:00 朝食

09:15 **全員** 実習:環境教育プログラムの体験

11:00 休憩

11:15 インタープリテーション概論

12:00 昼食

13:15 17期生クロージング

14:15 17期生お見送り、休憩

~~~~~これより、18期生のみ~~~~~

15:30 実習&講義:体験学習方概論

17:00 実習&講義:安全管理

18:00 夕食

19:15 環境教育プログラムの体験:ナイトハイク

20:15 1日を整理する時間

=====

第3日目 7月13日(月)

テーマ:伝える

=====

08:00 朝食

09:15 環境教育プログラム実施&相互評価のオリエンテーション

09:45 環境教育プログラム実施の準備

11:30 昼食

12:45 インタープリテーション体験実施&相互評価

15:15 休憩

15:45 インタープリテーション体験実施のふりかえりとわかちあい

16:45 講義:インタープリテーション

17:15 講義:企業のCSR活動

18:00 1日を整理する時間

18:30 夕食

20:00 自由交流会

=====  
第4日目 7月14日(水)

テーマ:ふりかえる  
=====

08:00 朝食

09:15 補いの講義、質疑応答

09:45 講義のふりかえりとわかちあい

11:00 TV会議準備

11:30 TV会議

12:00 昼食

13:15 18期生クロージング

13:45 終了、解散

## 1日目: 出会う



### ■ 開講式・オリエンテーション

ひと足早く17期生が到着し、昨年の前期講座で行なったことや感じたことをふりかえった。そして、みんなで18期生に行なう環境教育プログラムのねらいを確認しあい、準備にとりかかった。その後、18期生も合流し、今回の参加者19名が揃って開講式が行なわれた。

### ■ 環境教育プログラムの実施(17期生) / 体験(18期生)



外に出て、みんなで自己紹介ゲームを行なった。17期生の雰囲気にも助けられ、18期生の緊張も和らいでいった。そして、お互いを知り、心も身体もほぐれた後は、17期生から18期生へのプログラムの実施。17期生からは「緊張してきた」という声が聞こえてきたが、緊張しながらも、自分達で考えたプログラムを実施することに楽しさを感じている様子だった。18期生も、そんな17期生の姿を見ながら、プログラムを楽しんでいた。

### ■ プログラム実施のふりかえりとわかちあい(17期生)

部屋に戻り、17期生は、プログラムを実施してみたの感想・体験してみたの感想を共有した。反省点や改善点も挙げられ、有意義な時間となった。また、フィードバックをもらったことで、プログラムを実施するための新たな視点に気づいた様子だった。



### ■ 講義: 環境教育概論 (18期生)

この時間、18期生は「環境教育とは何か」ということを学んだ。グループに分かれて話し合う時間もあり、18期生からも様々な考えが挙げられた。そして、さまざまな環境問題を解決するために、環境教育のアプローチの方法も多岐に渡るということを知った。自分なりの「環境教育」を考えるキッカケになったようだった。





#### ■目的の共有化・自己紹介

自分のキーワードを3つ挙げて自己紹介。そして、この講座にかける思いや目的を一人ひとり発表した。

みんなの声に耳を傾けながら、それぞれがこの講座に期待を膨らませている様子だった。

## 2日目:つなぐ



#### ■実習:ガイドウォーク

朝のガイドウォーク。前日遅くまで語り合っていたためか、眠たそうな目をこすりながら集まってきた。体と心をほぐした後、朝の森に出かけていった。木のブランコで遊んだり、葉っぱの香りを感じたりしているうちに、眠っていたみんなの体も五感も目覚めてきた。50分ほど朝の森を散策し、気持ち良く1日が始まった。



#### ■実習:環境教育プログラムの体験

この時間は、みんな一緒にレンジャーによる環境教育プログラムを体験した。森の中で“森人”を探したり、グループで「1本の木を愛でる詩」を作ったりした。お互いの感性に刺激を受けながら、まさに「体験から、お互いに、楽しみながら」学んでいた。

#### ■今後に向けて(17期生)

##### /インタープリテーション概論(18期生)

この時間、17期生は今後に向けて、自らの今の課題をふりかえった。自分の課題を見つめる時間をもてたことで“それに向けて何ができるのか”が明確になり、心の中のもやもやが小さくなったようだった。

そして18期生は、「インタープリテーションとは」という基本的な考え方を学んだ。実際に体験したプログラムを例に考えることで、インタープリターの役割、伝え方がはっきりとイメージできた様子だった。





#### ■17期生クロージング

「今の気持ち」「17期生 18期生へ、18期生 17期生へのメッセージ」をクリップボードに書いて見せ合った。そして、17期生は「大事にしたいキーワード」を一人ひとり発表した。前期、後期を通して、体験から、そして仲間から学ぶことの多かった17期生。それぞれが、それぞれの思いを胸に、旅立っていった。

#### ■実習 & 講義: 体験学習法概論 & 安全管理

18期だけになって、初めての活動。体験学習法、安全管理に関する講義を受けた。インタープリターに必要な条件を考えたり、自分達のコミュニケーションをふり返ったりしながら、プログラムを組み立てるときにも、“プロセス”を意識することの大切さを体験から学んだ。そして、プログラムを考へるとき、忘れてならないのが安全管理。起こりそうな危険を予測すること、そしてそれを共有することの大切さ知った。



#### ■環境教育プログラムの体験: ナイトハイク

夜の森へ出かける「ナイトハイク」を体験した。

森でのアクティビティ「キツネとネズミ」を体験した後、草原に寝転がり、夜空の下で「ソロ」の時間を味わった。感性がひらく夜。昼間とは違った雰囲気の中、それぞれが自然のことだけでなく、プログラムのこと、自分自身のことなどをみつめる時間となったようだった。



## 3日目:伝える



### ■実習:インタープリテーション体験実施&相互評価

18期生もいよいよ、自分たちでプログラムを考えて実施するときがきた。まず、実施するペア決めた。その後は、実際にフィールドに行き、"何を伝えたいか"、"何をしたいか"のすりあわせをした。困ったときは、スタッフの設置した「相談所」に駆け込んだ。プログラムが始まると、緊張しながらも、企画者たち自身が楽しんでいる様子が伝わってきた。また、フィードバックをもらうことで気づいたこと、実際に行なってみて気づいたこともあったようだった。行なったものを見直すということは、とても重要な要素であることを、身をもって感じる事ができた。



### ■講義:インタープリテーション

プログラムを実施した後は、インタープリテーションについての講義を受けた。インタープリテーションを考えたときの流れ、人のことや使う材料のことを理解することの重要性、さらに、体験学習法の循環過程を学んだ。プログラムを実際に行なった後で聴く講義は、実感がまざり、学びの多いものとなった。



### ■講義:企業のCSR活動

本講座を開催する機会を与えてくださった NEC から、山辺さんをお迎えして CSR 活動のお話を伺った。NEC が行なっている活動の紹介だけでなく、企業理念、社会貢献活動を行なうにあたっての考え方などを教えていただいた。また、直接お話を伺えたことで、活動への強い思いを感じる事ができた。

### ■自由交流会

最後の夜は、外で焚き火を囲みながらの交流会。プログラムを終えた達成感と、みんなと過ごす夜ということもあり、みんなのテンションは最高潮。マシュマロを焼いたり、星を眺めたり。時間が過ぎるのも忘れ、みんな遅くまで語り合った。



## 4日目:ふりかえる



### ■補いの講義、質疑応答

学んだことを整理する時間。そして、疑問を残さないための質疑応答の時間となった。「ジョハリの窓」についても学び、フィードバックの大切さを改めて知ることができた。そして、誰もがインタープリターの役割を果たすことができるということ学んだ。



### ■TV 会議

今回初の試みである、テレビ会議。もう1つの開催場所である、オークヴィレッジの小木曾さんに、「この講座で感じたこと」を一人ひとり発表。どこを見て話していいのかわからず戸惑いながらも、それぞれ思いを語った。そんなみんなの顔は、自信に満ち溢れていた。



### ■講座のふりかえりとわかちあい

出会いから今まで過ごした時間を、スライドショーでふりかえった。その後、この4日間で得られたもの、これからしていきたいことなどを、ひとりになって書いた後、その思いをみんなで共有した。長いようであつという間だった4日間。みんなで行なった一つひとつの活動を思い出しながら、それぞれの思いに耳を傾けていた。



### ■18 期生クロージング

いよいよみんなで過ごす、最後の時間。一人ひとり、「自分が今、大切にしたいこと」を発表した。「学生」という共通点はあったが、10人がそれぞれ個性的で、まさに“十人十色”であった。お互いにその違いを認め、刺激を受けながら成長してきた4日間。別れを惜しみながらも、再会を約束し、それぞれ旅立っていった。

## Bコース: キープ・フォレスターズスクール受講生(18期生)の感想です。

■今回の講座で学んだことは南ですか？そして講座の体験を踏まえ、これからあなたは環境教育活動にどのような形で関わっていこうと考えていますか？

私は企業で働きながら、自由になる範囲内で環境教育に関わりたいと考えています。そして環境教育においては、「人と人がつながることが出来る場を作る」ことを重視したいと考えています。

具体的には自然に親しむ機会を提供すること、またその機会作りそのものを通じて、人がつながれる場を作りたい。そしてその場が人を元気にしたり、自分の存在価値を確認できたり、生きていることに楽しみを見つけたりできるような場にしたい。これが、私が目指す環境教育です。将来的には企業としてそのような場作りに貢献できればと考えています。そのためにも無理をせず、出来る範囲から、少しずつ粘り強く環境教育に関わり続けます。積極的に環境教育に関わっている団体に顔を出して、活動に参加していくこと。そして環境教育に関わっている知り合いを増やすこと。この二つを実行します。

この講座に申し込みをすることは、私にとってとても勇気のいる行動でした。普段慣れ親しんだ自分の殻から出ることができず、何か新しいことを始めたり新しく人と出会うことに億劫になっていた私にとって、新しい一歩を踏み出すきっかけが、この講座でした。「これを機に変わりたい」という気持ちを強く持って参加したように思います。この4日間は大袈裟ではなく、今までで一番刺激があり成長した4日間でした。森とのふれあいはもちろんのこと、それぞれ違う視点や考えをもった仲間の多様性を吸収し、それによる自分の気持ちを観察することは、「私」という人間を知る、最高の時間でした。

私はこの講座をきっかけに、環境教育活動にまた参加してみようと考えています。しかし、環境教育活動だけに限らず、いろいろな視点で自然に向き合いたいです。新しい一歩を踏み出すことに億劫にならず、水をぐんぐん吸い込む土のように、吸収しつづけていきたいです。まずは「知る」ことから始めていくことを目標にします。

この講座には、主にもっと自然を身近に考えてみたいという理由で参加しましたが、実際は自然そのものの勉強よりも、他の受講者たちの自然に対する考え方などを知るいい機会でした。ただそうやって自然に接しながら周りの意見を聞いていると、他の人達との考え方の違いがよく見えた気がしました。インタープリターでは、自分では全く想像しなかった答えが返ってきたり、何度か話して自然に対する考え方の違い、少し言いすぎなんじゃないかと思った人の口から、自分でも考えたことがあるような考えが出てきたりして、その人にとってはそれが普通の考えなんだなと思ったり共感できる考えがあったりで面白かったです。

ただ意見交換という意味では、自分は一番うまくいっていませんでした。せつかくの場なのだからもう少し自分から話せるようにならないと駄目だと思いました。

この講座は森のことだけでなく、全ての関係につながっている土台を学べる貴重な講座である。本当は感じていたけど切り捨てている部分を、この講座を通じてお互いに大事にしあえたことで、心の充電ができた。余裕が生まれ、お互いの感じ方の違いを興味深く、新鮮に、敬意を持って受け入れることが出来た。

また、知識の面でも、今回の講座で、森と接点を持つ方法や、プログラムの作成方法、伝え方など有意義なものをたくさん学べたと思う。木は好きだけど、その次どうやってその好きを深めたら良いのかわからなかった私にとって、環境、自然関連の活動をしている人たちと接することが出来たのは本当に貴重で、これからの人生の土台づくりの第一歩となるだろう。

最初は日本の環境教育を体験したいという気持ちと、仲間との交流ができればいいかなーと思った。ところが、その講座を通してそれ以上の充実感があった気がする。企画するのも伝えるのも大変苦労したが、実際に環境教育プログラムを企画し、実習までやったからです。

教わったことを挙げると、まず、土・木・葉っぱなどの大切さを感じたことである。私自身、東京で生活する時間が増え、土・森などと接触する機会も、その大切さに目を向ける時間さえも少なくなっていたに違いない。静かな森の中でその大切さを感じることができた。小さな葉っぱの魅力を考えながら、自信感をなくしている自分に改めて自分の魅力を考える時間になった。もう一つは、同期生との交流を深めたことである。夜遅くまで率直に話し合い、そしてプログラムの中でお互いに励まし合っていたことは忘れない思い出になっている。

特に収穫があったのはやはり、インタープリター実施体験であった。自分が想像していた以上に肯定的なフィードバックをもらえ、自分のスタイルの一つとして自信を得ることができた。また、こういった場でストレートな意見をくれる仲間巡り合えたことも、大きな収穫であったと感じられる。

自分は、自然との共生に根ざした地域コミュニティ作りもしくは再生を、環境を観点にした専門家の立場からアプローチしていきたいと考えている。人と自然をつないでいくため、人と人をつないでいくためにも、環境教育の手法は様々な形で必要となってくると考えられる。野生動物管理、過疎化による里山崩壊の最前線で、今回学んだこと、得た多くのものを活かしていきたいと考えている。その結果、自然との共生に根ざしたコミュニティの形成により、人にも、野生生物にとっても住みよい環境を作ることに貢献していければと考えている。

今回の講座から学んだことは「素直さ」である。ありがとうと言ったり、いいところを探したり、素直になることは幸せになれると思った。素直に受け入れ素直に表現することは、いろんな経験をするにつれゆがんでしまう。固定観念という色眼鏡で物事を見て、周りを気にして表現することを制御してしまう。年をとればとるほどそういうものだと思っていた。だけどみんなと交流するうちに色眼鏡は悪いものではなく、逆にあるから面白いのだと思えるようになった。アクティビティを通して一人ひとりが違う感じ方をして違う表現の仕方をしていることがよくわかった。素直に受け入れ表現すること、ありのままの自分を表現すること、それこそが個性なのだ改めて感じることができた。

みんな素直さを忘れていて人とのいい関係作りができないし、自然環境に配慮ができないし、病気になってしまったりする。もっと自分の心を見つめれば関係も環境ももっとよくなるのではないかなと思う。素直に生きること、それを伝えられる人になりたい。まずは自分がそうなること、そして身近な人から伝えていきたい。自分の身の回りから一步一步幸せを広げていく環境教育活動にしたい。

この講座をふりかえって強く感じることは、とてもゆったりした時間の中に、すばらしく効率の良い過程が盛り込まれていたということです。アイスブレイキングから始まり、導入があって、意見を出しあい、ディスカッションがあって最後に必ず感想などのまとめがあり、この中でどんどん自分の考えがまとまっていき、自分という人間にもいろんな面があることを学びました。そして、他者との関わり方、人の意見を聞く面白さ、そして同じ志をもつ仲間ができる喜びも学びました。環境教育とは、ただ自然を学び自然環境の尊さを伝えるだけでなく、人間の内面の豊かさを教えることでもあると感じました。いつも森を科学の観点からしか見ることのなかった私には、森を「心で見ると」面白さには驚かされました。

今回の講座で環境教育と出会いやっとスタート地点に立てたところですが、自分の専門性を生かし、森林や生物多様性の重要性に加え、「心」を伝えられる人間になりたいと思っています。

人はそれぞれ異なるメガネを持っており、違う世界を見ていると考えることができます。そうしたことを実感することが、多々ありました。他の人が見る世界を、自然を使ったインタープリテーションを通して見ることができました。互いに見ている世界が違うことを知り、認め合うことの大切さを、自然を通してすんなり受け入れることができるように思います。自然自身の大切さや魅力を伝えるだけでなく人同士のつながりや関わりを作り、大切さを知ってもらうこともインタープリターとして大切だと感じました。

来年の春から就職となります。直接、環境教育活動ができる職には就かないのですが、NPOに参加していきたいと考えております。そして自分自身が自然を楽しむことを忘れないよう過ごしたいと考えています。そしてNPO活動以外にも身近な人であるとかに伝えていくことで環境教育活動と関わっていきたくて考えています。